

キリスト教保育

年主題 ともに

論説

協同的な学びの中にある

子どもの主体性(1)

橋本祐子

小論

父子関係と父親支援(1)

父親を取り巻く環境と父親支援

小橋恭弘

礼拝のお話

加藤喜久美



2025 DEC. 12

彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、初子を産み、布にくるんで、飼い葉おけの中に寝かせた。客間には彼らのいる余地がなかったからである。

聖書 口語訳聖書・ルカによる福音書2章6～7

ヨセフとマリヤの夫妻は、自分の故郷の町ベツレヘムに帰ってきたが、そこには頼るべき知人もなく、宿るべき家もなかった。やむなく二人は馬小屋に宿りを求め、マリヤはそこで子どもを産んだのである。それがイエスである。クリスマスは楽しく、喜ばしい季節である。しかし、私たちは主イエスの誕生についての、この厳しい側面を忘れないようにしよう。

神の子は地上の父母としてヨセフとマリヤを選ばれたのである。そして、飼い葉桶を最初の寝る所となされたのである。神の子は王室をその誕生の場所として選ばなかった。王者をその両親として選ばなかった。そうではなく、貧しき者、寄る辺なき者を、その両親に選ばれ、自らも貧しき者、寄る辺なき者となられたのである。貧しき者、寄る辺なき者の友となり、その運命を背負われたのである。

人間の世界は神の子を迎えるのに飼い葉桶しか提供できなかった。人間はそれぞれ寝る所、客間を持っていた。しかし、神の子を迎え入れる余地をあげなかった。

クリスマスの出来事には分からないところがある。神の御子が人間になられたということは、私たちには理解できないところがある。考えてみても、読んでみても分からない何かが残る。それはただ、私たちが主イエスを仰ぎ続けることにより、仰ぎ続けて生きることによってしか解決できないことではないかと思う。理解されなくても理解しようと努める。愛されなくても愛そうと努める。そのような努力を積み重ねて生きることによってしか、私たちは神の思いに近づくことが出来ないのではないかと思う。

マタイによる福音書では、暗い夜空に輝く星が、東の国の博士たちをベツレヘムに導き、その星は御子のいます所の上にとどまったという。私たちの思いが、その上に星の歩みをとどめるようになりますように、私たちの生活がその上に星の歩みをとどめるようになりますように、神の御子をそのうちに宿すことが出来ることを共に祈りたい。

江口 武憲・執筆（当時・日本福音ルーテル小岩教会牧師）
1974年「キリスト教保育」誌12月号より

キリスト教保育

第681号12月号



年主題 ともに

幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 クリスマスに寄せて 民秋 理

〈論説〉 協同的な学びの中にある

子どもの主体性(1) 橋本祐子

クリスマスの祈り

〈小論〉 父子関係と父親支援

①父親を取り巻く環境と父親支援

小崎恭弘

絵本のとびら 横田恵美子

聖書にきく・お話 黒米理恵

「カリキュラム」

12月 月のねがい表

心にとめて 寺田千栄

実践報告 のぞみ幼稚園

実践からの学び 金澤直子

心にとめて 大瀧知子

実践報告 横浜訓盲学院

実践からの学び 高田憲治

2 3 4 6 15 16 21 22

25 26 28 33 34 38 43

〈連載〉 私たちのキリスト教保育 新本富子

〈連載〉 みんなで楽しむ楽器 山内信子

私たちの園では 松村幹子

目福口福耳福 一色輝生

礼拝のお話 加藤喜久美

夏期講習会特集

風 松本敏之 編集子 矢部尚子

連盟だより

カット 中畝治子 金井ユリ 藤安初枝 小鯛みのり

松成真理子 藍田とみ子 野田美佳 表紙絵 田中模子

44 48 52 55 57 68 79 80

